

年次大会報告講演要旨とお願い



早稲田大学
棟近 雅彦

2019年11月より、会長の2年目を迎えることになりました。早稲田大学で開催された第49回年次大会では、48年度の活動の中から3項目について報告をさせていただきました。本稿では、参加されなかった方に講演の要旨をお伝えするとともに、今後の活動へのよりいっそうのご支援をお願いしたいと思います。

報告の一つ目は、品質不祥事への対応です。よい品質の製品を出すためのマネジメントには、逸脱行為が起これないようにするマネジメントも含むと考え、本学会では品質不祥事対応WGを設置し、今後何するべきかについて検討してまいりました。

WGは、各界に対して、「企業における品質経営の推奨」と、「小中学校から大学までの品質管理教育の強化」の2点を提言しました。また、学会がやるべきこととして、各団体への品質不祥事対応強化の働きかけと、社長に品質問題に目を向けてもらうこと、そのための施策の一つとして、コーポレートガバナンスコードに「品質」を入れることも提言しました。

二つ目は、先般行った学会名称変更アンケート結果の速報です。アンケートは1384名の方にお願ひし、有効回答数は1102、回答率は79.6%でした。この手のアンケートでは、驚異の高回答率といえるでしょう。多数の回答をいただいたことに、厚く感謝申し上げます。

名称変更への賛否は、「変更しない」が58.1%、「変更する」が40.1%でした。変更しないでよい理由は、「名称が浸透、定着している」、「名前を変えるより品質の定義を伝えた方がよい」などで、伝統を重んじる意見が多くありました。変更する理由は、手違いで聞くことはできませんでした。変更後の名称案としては、日本語では「日本品質マネジメント学会」、「日本品質学会」、「日本品質経営学会」、英語では「The Japanese Society for Quality Man-

agement]、「The Japanese Society for Quality」, 「The Japanese Society for Customer Value Creation」が上位でした。この結果を参考に理事会で議論し、49年度中に結論を出す予定です。

三つ目は、学会誌・論文誌あり方WGの中間報告です。学術界では、大学間の国際競争が激化し、大型プロジェクトでの研究費獲得と論文の数が重視されています。学術雑誌間の競争も激化し、ある雑誌に掲載されたある論文が、一年間に引用された平均回数であるImpact Factor (IF) といった指標で、雑誌もランキングされています。Web of Scienceという英文論文データベースのうち、工学系では、Science Citation Index Expanded (SCIE) というデータベースに収録されると、IFがつきます。つまり、認められた雑誌になるには、英語論文を多く掲載することが必須です。研究者の業績も英文論文重視ですので、本学会でも英文雑誌を充実させ、IFを取りに行く必要があります。

本学会では、この課題に対処するために、上述のWGを立ち上げ、対策を検討しています。今後の方針として、ANQで発表されたJSQCの論文を掲載しているTotal Quality Science (TQS) 誌を、IFを取得できる雑誌へと育てていくことを掲げ、そのためのロードマップも示しました。

最後にお願ひです。品質不祥事に関しては、ご自身の所属する組織で起きえないのか、起きるとしたらなぜなのかを熟考していただきたいと思います。名称変更アンケートのきっかけは、「品質」という言葉の使われ方でした。1年前の巻頭言で触れていますので、ご一読いただき、「品質」の意味を再確認していただきたいと思います。雑誌については、準備が整えば、英文での投稿をお願いすることになると思います。皆様の積極的なご支援をお願いいたします。